

# SFRR Japan NEWSLETTER

January 1, 2018



## Top News

2018年 戌年



年頭のご挨拶



理事長 豊國 伸哉

(名古屋大学医学系研究科 教授)



新年を迎え、会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。理事長2期目の2年目となりました。SFRR AsiaのPresidentは第10代目となる中国のYang Liu教授に引き継ぎ、SFRR InternationalのPresidentは残すところ1年となりましたが、より一層日本のそしてアジア・世界のフリーラジカル・酸化ストレス研究の育成・発展のために尽くしていく所存であります。今後とも会員の皆様の御協力・御支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

さて、日本酸化ストレス学会では、2013年度6月に開催された理事会の承認に基づき、法人化検討委員会を立ち上げて、学会の法人化について調査、検討してまいりました。種々討議を重ねた結果、2016年8月の理事会において、「日本酸化ストレス学会を法人化するべきである」という結論に達し、2017年度総会時に会員の皆様とその詳細をご説明し、ご承認をいただきました。現在、2018年度からのその設立に向けて、さまざまな手続きを進めており、2018年5月京都の総会時に法人化が完成する予定です。同時に現在、学会での発表内容の企業との関連などの透明化に関するCOI等の倫理規定に関しましても検討を進めており、2018年度より実施予定であることをお伝えしておきます。

昨年にはこれまで日本のフリーラジカル研究を黎明期から支えてこられたお一人の吉川敏一名誉理事長がマスコミで批判にさらされるという事案があり、私たちも大変心を痛めております。京都府立医科大学内でもまだ調査・審議中の案件であることですので、学会としてはその行方を見守りたいと思います。

今年はSFRR Internationalの年であり、6月にリスボンで開催されます。18のシンポジウムがすでに決定・公開されておりますが、一般演題はまだこれから募集されます。リスボンは食文化が豊かでたいへん美しい町です。日本から多くの参加者がいることを期待します。最後に、次の2020年のSFRR Internationalは台湾桃園市(台北市のお隣です)Chang Gung Universityで春に開催されることが決定したことをお伝えして結びといたします。

末筆となりましたが、本年も会員各位におかれましては、健康と安全に十分に留意され、ますます御活躍になることを祈念しております。



## 法人化に関わるお知らせ

かねてよりご案内致しております通り、本会は本年4月より法人化予定です。

法人化に伴い、任意団体であります現日本酸化ストレス学会を解散し、2018年4月2日より新たに「一般社団法人日本酸化ストレス学会」としてスタートします。基本的に任意団体の会員はそのまま引き継がれ、会員の皆さまにおかれましては、特別なお手続きは不要となっております。

・会員継続を希望しない**退会希望者は、2月末日まで**に事務局宛、文書にてご連絡をお願いします。

・所属変更、連絡先変更など登録内容に変更が生じた場合には、必ず事務局までご連絡をお願い致します。連絡先不明となると、**会員継続ができません**ので、十分にご留意お願い致します。

・会員情報の登録/変更については、近い将来的に、個々にマイページで修正いただく予定です。重要な連絡が発生しますので、連絡のつくメールアドレスを極力ご登録ください。メールが使用が不可の場合は事務局宛ご相談をお願いします。

・2017年までの未納分の会費については速やかにご納入いただきますようお願い致します。2018年度以降の前納については、法人に引き継がれますので、重複しての会費請求はございません。2018年3月時点での**会費未納者は基本的に会員継続は行われません**ので、ご注意ください。

・学会の年度は、現行の1月～12月より、4月～3月に変更されます。

## ◇◇◇ 年次学術集会案内 ◇◇◇

第71回日本酸化ストレス学会  
第18回日本NO学会 合同学術集会



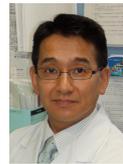
会期: 2018(平成30)年5月17日(木)～18日(金)

会場: 京都ホテルオークラ

〒604-8558 京都市中京区河原町御池

<http://okura.kyotohotel.co.jp>

会長: 内藤 裕二(京都府立医科大学消化器内科 准教授)



開催のご挨拶

「一般社団法人日本酸化ストレス学会」として初めて開催される、第71回日本酸化ストレス学会学術集会の当番会長を仰せつかり、鋭意準備を進めているところでございます。特に今回は日本NO学会との合同開催ということで、規模が大きいため、会場も市内中心部にある京都ホテルオークラを確保し、5/17(木)、18(金)の2日間にわたって開催することになりました。

会期中は特別講演として国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の末松誠先生と、東北大学の赤池孝章先生にご講演を賜ります。また、両学会の合同シンポジウム「活性イオウ分子の生体分析と機能・病態解明の新世代研究」に加え、日本酸化ストレス学会独自のシンポジウムとして公募から選ばれた「システイン-グルタチオン系による細胞のレドックス制御」、「オキシリボクオリティの先端研究」、「酸化ストレスと疾病メカニズムの新知見」を予定しています。その他、meet the professorのセッションでは、本会を支えてこられた重鎮の先生がたにご講演を頂きます。その他、恒例の受賞講演、YIAセッション、一般口演、ポスターと盛りだくさんとなっております。このニュースレターが皆様のお手元に届く頃には演題募集が始まっています。奮って演題ご登録を宜しくお願い申し上げます。

今回は学会の規模も大きく予算規模も大きいため、現時点では苦戦しておりますが、多くの先生方にご協力頂き、漸く目途が付きそうな予感がしております。開催まであと数ヶ月ですが、「参加して良かった」と皆様に感じて頂けるような充実した学術集会にしたいと考えております。是非ともご協力を宜しくお願い申し上げます。



## ◇◇◇ 役員報告 ◇◇◇

2017年度役員会にて、新しい役員が下記の通り選出されました。

新名誉会員: 内海英雄、河野雅弘、宮田直樹

新功労会員: 太田好次、阿部皓一

新理事: 芦田 均、市川 寛、佐藤英介、中川彦彦

役員退任: 荒木栄一、田嶋邦彦

\*法人化後の役員について\*

名称の変更などは多少ありますが、初年度については、ほぼ同義の役職に継続して就任頂く予定です。以降は選挙など定款や法人法に則った運営となります。

【任意団体】

理事長 →

理事 →

評議員 →

監事 →

幹事 →

【法人】

理事長

理事

社員(代議員)

監事

幹事

## ～ 2017年度 各賞受賞者 喜びの声 ～

第70回学術集会(2017年6月筑波開催)において、選考委員会による厳正な審査を経て、理事会・評議員会の承認の下、下記受賞が決定いたしました。受賞者の皆様の今後の益々のご活躍を祈念いたします。



### 「2017年度 学会賞 を受賞して」

浦野 泰照

(東京大学院薬学系研究科・医学系研究科 教授)

この度は、日本酸化ストレス学会の学会賞を受賞することが出来、大変光栄に感じております。豊國理事長をはじめ、選考委員の先生方、またご推薦いただいた長野哲雄東京大学名誉教授に深く感謝いたします。また、この蛍光プローブ研究を長きにわたって支えてくれた研究室のスタッフと、実際に実験をしてくれた多くの学生さんに、心から感謝いたします。

私が長野研究室の助教として、蛍光プローブの開発研究を開始して最初に取り組んだテーマが、活性酸素種を区別して検出可能なプローブの開発でした。様々な試行錯誤を経て、DCFHの様に光照射だけで蛍光上昇が起こらず、OHラジカルなどのhROSを選択的に検出可能なHPF, APF類の開発に成功しました。この内容で、2002年に大阪市立大学の井上正康先生が開催された日本フリーラジカル学会の奨励賞に応募し、「平成14年度学術奨励賞」をいただきました。これが私の研究者人生で最初の受賞であり、とてもうれしかったことを覚えています。が、実はうれしかった以上に怖かったことの方をより鮮明に覚えていて、それは奨励賞候補講演の質疑応答で、「本当にそんな検出が出来るならすごいと思うが、私の目から見ると怪しいところも多い。あとでもっとさっちゃん話を聞かせてもらおうぞ!!」みたいな内容の発言を、ものすごいドスのきいた声で発せられた先生がいらしたからです。実際、その後すぐにその先生からセミナーに来るようにとの連絡をいただき、信濃町でセミナーをして内容に納得していただき、夜に美味しい物をごちそうになりながら、その後の共同研究の打ち合わせをすることとなりました。それが、現AMED理事長の末松誠先生でした。このように酸化ストレス学会は、私の研究歴の一番最初からずっと密接に関わってきた学会です。そのような学会の栄えある学会賞を受賞できたことは本当に光栄であり、今後は私がこれまでにお世話になってきた諸先生方のように、若手にモチベーションを与える側となって学会にご恩返ししていきたいと考えております。今後とも、ご指導のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 「2017年 学術賞 を受賞して」



澤 智裕

(熊本大学大学院生命科学研究部 教授)

この度は伝統ある日本酸化ストレス学会学術賞を頂き、大変光栄に感じております。豊國理事長、選考委員の先生方、ご推薦を頂きました東北大学赤池孝章教授をはじめ、関係各位のこれまでのご支援とご高誼に厚くお礼申し上げます。

私は、学部・大学院ともに工学系の研究室に所属し、ラジカルはラジカルでも高分子重合に関連する研究を行っておりました。当時の指導教官でありました故砂本順三先生にご推薦いただき、前田浩先生主宰の熊本大学医学部微生物学教室へ助手として着任し、そこで赤池先生が取り組んでおられたNO研究に参画する機会をいただきました。その中で、今回の研究対象となる活性イオウ(パースルフィド・ポリスルフィド)に出会う幸運に恵まれました。活性イオウは通常のチオールとくらべて、強力な還元力を示すだけでなく、親電子性と求核性を併せ持っていたり、また酸化修飾を受けたあとも還元により容易に再生されるなど、その多彩でユニークな特徴からレドックスバイオロジーの新展開に大きなカギを握るであろうと期待されています。私自身、このユニークな分子がもたらしてくれるエキサイティングな実験結果に日々魅せられながら研究を進めております。現在は活性イオウを切り口とした新しいアプローチで、教室員・共同研究の先生方とともに細菌の酸化ストレス応答や薬剤耐性、炎症シグナル制御の分子基盤の解明に取り組んでおります。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### ～ 各賞に記念の受賞楯が授与されます。～

学会賞・学術賞は翌年学術集会における受賞記念講演の際に授与。学術奨励賞、八木記念学術奨励賞は個々に郵送で届けられます。



松本 謙一郎

(量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所)

この度、日本酸化ストレス学会学術賞という名誉ある賞を頂くことができました事を、大変光栄に思います。豊國理事長をはじめ選考委員の先生方、これまでご指導くださいました多くの先生方に心より感謝を申し上げます。また、共に研究に携わり一緒に手を動かしてくださった研究室のスタッフおよび学生の皆様、共同研究を進めてくださった先生方に厚くお礼を申し上げます。1990年の4月、昭和大学薬学部の4年生の時に衛生化学教室に配属となり、教授の濱田昭先生と当時助教だった内海英雄先生の下で、EPRによるラジカル計測とEPRイメージングの基礎を教えていただきました。それから今日にいたるまで、ラジカル計測に関連する研究を展開してまいりました。その後1994年に、内海先生が九州大学薬学部物理化学研究室へ教授として移られて、私も九州大学の委嘱研究生としてラボに加えていただき、助手の竹下啓三先生、市川和洋先生、大学院生だった山田健一先生らと共にEPRイメージングと*in vivo*計測の研究に打ち込みました。1996年に昭和大学で博士号を取得後、国立がんセンター研究所・がん予防研究部のリサーチレジデントとして、酸化生成物によるDNA修飾と発癌の可能性について学びました。1997年から昭和薬科大学・物理化学研究室の助手となり、遠藤和豊教授の下で放射線測定学の基礎を教えていただき、また生体内微量金属と酸化ストレスとの関係を学びました。2002年から米国立がん研究所に留学し、放射線治療における生体イメージングの重要性について学ぶとともに、そこで多くの研究成果を上げることができました。2006年に放射線医学総合研究所に移ってからは、放射線が生成する活性酸素種の定量的測定を中心に開発研究を進め、同時に放射線が生じる酸化ストレス影響を磁気共鳴イメージングで評価する方法を探索しています。今回、学術賞を受賞できたのは、これまでの一連の研究実績が皆様に支えられながら実を結んだものと思います

### 「2017年 学術奨励賞 を受賞して」



平山 祐 (岐阜薬科大学薬化学研究室)

この度は、日本酸化ストレス学会学術奨励賞を受賞することができ、大変光栄に存じます。学会理事長の豊國伸哉先生、第70回学術集会会長の長崎幸夫先生、審査員の先生、関係者の方々には深く感謝申し上げます。また、日頃よりご指導いただいております岐阜薬科大学薬化学研究室の永澤秀子先生にこの場をお借りして感謝申し上げます。また、豊國先生が最初に我々の開発した二価鉄蛍光プローブに目をとめてくださったことがきっかけで、非常に多彩な分野の方々との共同研究の機会が得られ、自分の研究フィールドを広げることができたことは大きな幸運です。今回、二価鉄イオンを価数選択的に検出できる蛍光プローブについて、その検出原理の一般化と応用研究について発表させていただきました。ご存知の通り二価鉄イオンは酸化ストレスを考える上で重要な化学種であり、それを生細胞中で可視化できる化学ツールは、今後、酸化ストレス研究の発展に寄与できるものと考えています。本受賞を励みに、さらに精力的に研究に取り組み、酸化ストレス研究の発展に貢献できるよう精進していく所存です。今後共にご指導・ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

Vong Binh Long (筑波大学)

It is great honored to receive this prestigious Award - The SFRR Japan Young Investigator Award - at The 70<sup>th</sup> Annual Meeting 2017 of Society of Free Radical Research Japan. I would like to express my deep gratitude to Professor Shinya Toyokuni - President of Society, and Professor Yukio Nagasaki - Chairman of Meeting and my academic Advisor. I have joined in this Society since 2012 and presented at the Annual meeting every year, and I realized that the Japanese Oxidative Stress Meeting is one of the most exciting meetings I have ever attended. Since I graduated from Engineering School, it is great chance for me to learn many new points of view and knowledge during the meeting. More importantly, I have chance to meet and talk with many respected professors such as Toyokuni-Sensei, Yamamoto-Sensei, Naito-Sensei and other friends. My research is to develop the novel antioxidant nanomedicines to maintain the redox balance in various diseases including inflammatory bowel disease, cardiovascular disease and cancer. Using developed antioxidant nanomedicines, we could significantly improve bioavailability of conventional drug and change its biodistribution for specific targeting of drug in diseased tissues, resulting in a higher therapeutic window. In addition, the adverse effects of conventional drug can be suppressed dramatically in the combination therapy with antioxidant nanomedicine. Although there are still many challenges, I try to make more efforts on this research to take our developed nanomedicines to clinical practice in the future. With your encourage when receiving this Award, I find much higher motivation in my study and in contribution to this society. Again, thank you very much for your kind supports and available advices !!!

「八木記念学術奨励賞を受賞して」

小川 幸大 (量子科学技術研究開発機構/東邦大学)



この度は、名誉ある八木記念学術奨励賞を頂き、大変光栄に存じます。日本酸化ストレス学会理事長の豊國伸哉先生、前理事長の小澤俊彦先生、本賞を創設された名誉理事長の吉川敏一先生、第70回日本酸化ストレス学会学術集會長の長崎幸夫先生を始め、諸先生方に謹んで御礼申し上げます。本受賞論文研究では、がん治療線量レベルの皮膚被ばくによるメラニンの増加に着目し、マウス尾部皮膚中のメラニンに由来するラジカル量の増加は、X-band EPR を用いて非侵襲的かつ容易に測定可能であることを報告しました。この受賞は、松本謙一郎 チームリーダー (千葉大学大学院 客員教授)をはじめ、障害分子機構解析研究チームの皆様の懇切丁寧な御指導の賜物であり、心より御礼申し上げます。本受賞を励みに今後さらに鋭意努力して参りますので、御指導、御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

石原 康宏 (広島大学)



この度は名誉ある八木記念学術奨励賞を受賞し、大変光栄に存じます。米国滞在中につき2017年度学術集會を欠席していた中での突然の受賞に驚いております。選考委員の先生方、これまで研究をご指導頂きました先生方、また共に実験を遂行してきた学生に厚くお礼申し上げます。私は、化学物質による神経障害メカニズムの解明を大きなテーマとして研究を進めています。本受賞論文では、メチル水銀により生じる酸化の神経障害にROS-induced ROS releaseというミトコンドリアで活性酸素が自己増幅する機構が関わることを示したものです。本受賞を励みに、より一層酸化ストレス研究に精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

~ High Citation Awardとは ~

本学会オフィシャルジャーナルであるJournal of Clinical Biochemistry and Nutrition (JCBN と称する)において、前年度第一著者として受理された論文の中で、引用が多く、IF 向上の為に貢献のあった論文に授与するものである。2017年度より施行。今回が第1回となる。

「High Citation Awardを受賞して」

犬童 寛子 (鹿児島大学)



この度は、日本酸化ストレス学会「High Citation Award」という名誉ある賞を頂き、大変光栄に感じております。理事長の豊國伸哉先生を始め、酸化ストレス学会の諸先生方に深く感謝申し上げます。また、これまで酸化ストレスの研究に関しまして、日頃より御指導いただいております馬嶋教授にこの場をお借りしまして、深くお礼申し上げます。MnSODがスーパーオキシドのレベルを低下させるだけでなく、ONOO-との結合を抑えることによって細胞保護的に働くことを証明し、我々これを「ミトコンドリアスーパーオキシドセオリー」と提唱しているという内容の論文でこの賞を頂きました。私の専門は放射線ですが、放射線による人体への影響はとても重要な問題であり、特に低線量被曝による影響の評価は難しいと言われております。ミトコンドリア酸化ストレス誘導およびミトコンドリア損傷のさらなる解明は放射線影響の評価、指標になりうるものであり、今後も研究を積み重ね、さらに努力してまいりますので、変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

岡崎 泰昌 (名古屋大学)

この度は、名誉あるHigh Citation Awardを受賞させて頂きました。ご指導を賜りました、豊國先生、名古屋大学産婦人科の吉川先生、名古屋大学工学部の堀先生、田中先生をはじめ、引用文献として使ってくださった先生方に感謝申し上げます。JCBNに掲載して頂いた研究論文は、非平衡大気圧プラズマは生体高分子を酸化ストレスで修飾するという研究テーマです。非平衡大気圧プラズマは、半導体などのnmサイズの加工技術として発展して来た確立した技術です。一方、非平衡大気圧プラズマの生物学的作用の研究は新分野であり、競争相手は多くはないものの、世界的な研究者間でのぎを削って切磋琢磨を行う、これからの発展が期待できる、'ブルーオーシャン'の一つではないかと考えています。今回の受賞を励みに、酸化ストレスとプラズマ医療科学の形成に貢献していきたいと思っております。私たちの研究論文を評価して下さった、内藤先生、半田先生をはじめ、選考委員会の先生方に厚く御礼申し上げます。

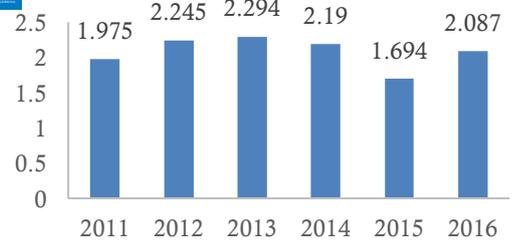
JCBN (学会オフィシャルジャーナル) 情報  
(Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition)



オンラインによる投稿随時受付中!  
Online SubmissionのURL

<http://www.editorialmanager.com/jcbn/>

Impact Factor: 2.087 (2016)



JCBN随時オンライン投稿を受付中

毎年会員の投稿の若手研究者 (男性 40歳以下、女性 45歳以下) の中より、前年度発表の最優秀論文に対して、八木記念学術奨励賞を授与しております。会員各位の投稿をお待ちしております。また、新役員 (理事・評議員) 申請には、JCBNへの投稿実績が必要ですので、是非お早めにご投稿頂けますようご案内申し上げます。※特別審査・掲載なども受け付けております。(別途有料・編集事務局宛にご相談下さい。)

Editorial Secretariat for JCBN <jcbn@koto.kpu-m.ac.jp>

◇◇◇ 年次学術集會案内 ◇◇◇

第72回日本酸化ストレス学会学術集會



会 期: 2019 (平成31) 年6月27日 (木) ~ 28日 (金) (予定)  
会 場: 北海道札幌市 (予定)  
会 長: 稲波 修  
(北海道大学 大学院獣医学研究院 応用獣医学講座 教授)

このたび、2019年開催予定の第72回学術集會の会長の任を執らせて頂く事となりました。初夏の訪れを知らせる6月の札幌はさわやかな気候で短い夏を楽しむイベントが目白押しで、「都市と自然」この二つの要素を併せた「調和」が札幌の最大の魅力でもあります。是非この地で多くの学会員の皆様が分野の垣根を越え様々な要素を併せ新しい酸化ストレス研究における発展と調和が生まれる事を期待しております。現在、札幌駅や道庁から近い道民活動センター (札幌市中央区北2条西7丁目道民活動センタービル・<http://homepage.kaderu27.or.jp/index.html>) を予定しておりますが、新たな可能性も検討しております。詳細が決まりましたら、あらためて皆様にお知らせさせて頂きます。会員皆様のご協力とお力添えをお願い申し上げます。



☆☆ 学会報告 ☆☆

【Free Radical School 2017を開催いたしました】

永根大幹 (麻布大学)

会期: 2017年8月8日-8月9日

会場: NamiKaze TATEYAMA

(旧 筑波大学館山研修所、千葉県館山市)

台風5号が迷走するなか、NamiKaze Tateyama

(旧 筑波大学館山研修所)におきましてFree

Radical School 2017を開催いたしました。

39名が参加し、バラエティ豊かな12講演

を行いました。残念ながら館山湾火花大会は

延期されてしまいましたが、ポスター発表で

は台風に負けない盛り上がりとなり、黒川

宏美先生 (筑波大学) と岸和寿君 (麻布大学)

に最優秀演題賞を授与しました。来年度より

事務局が永根大幹 (麻布大学) と吉原大作 (兵庫医科大学) になります。

来年度も同様に開催いたしますので是非ご参加お願いします。



◇◇◇ 関連学会 開催案内 ◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにて随時情報を掲載予定です。

**日本酸化ストレス学会 東海支部 第6回学術集会**

日時：2018(平成30)年2月10日(土)13:00-17:30  
 会場：静岡市産学交流センターB-nest 6F プレゼンテーションルーム  
 〒420-0857 静岡県静岡市葵区御幸町3番地の21ペガサート6階  
 TEL: 054-275-1655  
 実行委員長：下位香代子(静岡県立大学食品栄養科学部)  
 実行委員：三好規之(静岡県立大学) 保田倫子(椙山女学園大学)E-mail : seitai5787@u-shizuoka-ken.ac.jp, shimoi@u-shizuoka-ken.ac.jp

**19th Society for Free Radical Research – International Biennial Meeting (hosted by SFRR-E)**

Date : June 4-7, 2018  
 Venue: Lisbon Conference Centre, Lisbon, Portugal  
 Further information: <http://sfrr2018lisbon.org/ideia/p>  
 Call for paper :  
 The deadline for submitting abstracts is Feb 20, 2018. Abstracts that are submitted for oral presentation will be subject to an evaluation process by an international review panel.



**9th SFRR Asia Biennial Meeting**

会期: April 4-7, 2018.  
 場所: 京都市国際交流会館 (Kokoka)  
<http://www.kcif.or.jp>  
 Organized by SFRR-Japan  
 会長: 内藤裕二 事務局長: 半田修



インド、中国、韓国、タイ、台湾、マレーシア、日本の7 regionで組織されるSFRR Asiaの2年に一度開催される国際学会が、日本で開催されます。



**シリーズ:酸化ストレスのつぶやき 第14回**



半田 修

(京都府立医科大学消化器内科)

早いもので、本シリーズを開始してから7年になる。これまでに多くの先生方に寄稿していただいたが、

いずれも本人の人となりを表す内容であったと思う。上手な面白い内容を書かれるなあと感心する場合もあれば、真面目一本で難しいことを書かれる先生もおられて、個人的には楽しく拝読させて頂いた。

「つぶやき」は他人に向けてつぶやく場合もあれば、自分に向けてつぶやく場合もある。ツイッターなどでは主に他人に向けてつぶやくのだが、つぶやきがつぶやきを呼んで、大ごとになる場合もある。良いつぶやきが大きく取り上げられるのは嬉しいことだが、他人を非難するようなつぶやきが大きくなっていくのは気持ちの良いものではない。本シリーズは幸い、良いつぶやきのみであったと思う。

私自身のつぶやきに戻ろう。このニュースレターは皆さんご存じいかも知れないが、年間2回発行している。会員への原稿依頼、督促、集まった原稿のレイアウト、印刷、発送など完成までには様々な工程があり、多くの人の手助けをもらっているが、その主たる業務を伊藤秘書に担当して貰っている。他の学会の事務局もしてもらっているので、忙しいことこの上ないと思われる。頑張っているトには素直に「頑張っているね、ありがとう」と伝えられると良いなと思う。

さて、今回でこのシリーズは最後になるが、次はどのような企画にするか悩んでいるところである。若い人向けの「酸化ストレス初めの一步」にしたいのだが、原稿を書いてくれる人がいるかどうか。是非ご協力頂ければと思う 今日この頃なう。



◇ SFRR International & Asia News ◇

**Congratulation!**

2017年に開催されました SFRR 関連国際学会にて、下記の方が若手奨励賞 (Young Investigator Award) を受賞されました。益々のご活躍をお祈り致します。

**The 8th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research-Asia (SFRR-Asia) & The 14th Conference of the Asian Society of Mitochondrial Research and Medicine (ASMRM): The Cross talk between Free Radicals and Mitochondria in Health and Disease**

(September 8-11, 2017 Venue: Xi'an Nanyang Hotel 西安/中国)

**SFRR Asia YIA (計7名)**

- 1) SFRR ASIA TRAVEL AWARD Supported by T&F
  1. Yu-Ting Wu (Taiwan)
  2. Yukihiko Ogawa (Japan)
- 2) SFRR Asia Young Investigator
  3. Yuying Zhang (China)
  4. Jinyoung Suh (Korea)
- 3) T & F Young Investigator Award
  5. Jiao Meng (China)
  6. Yeon-Hwa Lee
- 4) T & F Prestigious Poster Award
  7. Yosuke Suyama (Japan)
  8. Rieko Mukai (Japan)



**8th Joint Meeting of Society for Free Radical Research Australasia and Japan**

“Friendship makes all the difference”

(会期:2017年12月9日(土)~12日(火)/会場:東京工科大学八王子キャンパス+富士急ハイランドリゾート&スパ)

**SFRR Japan YIA (5名)**

- 大原 悠紀  
 本間 拓二郎  
 陶山 遥介  
 家田 直弥  
 菅原 響介



**【オフィシャルジャーナル】 “Free Radical Research”**

[http://sfrj.umin.jp/asia/en\\_Official\\_Journal.htm](http://sfrj.umin.jp/asia/en_Official_Journal.htm)  
 会員特別価格での定期購読の受付を行っています。  
 ご購読希望の場合は、事務局までご連絡をお願い致します。

SFRR Japan(日本酸化ストレス学会)は、SFRR International並びにSFRR Asiaの下部組織です。日本酸化ストレス学会の会員の方は自動的に両国際組織のメンバーとなっております。

◇◇◇ 事務局より ◇◇◇

新しい年が明け、日本酸化ストレス学会もいよいよ法人化の年を迎え、新しい一歩を踏み出すこととなります。事務局体制も会員登録などは法人事務局を外部委託し、会員の皆さま方により便利により安全にご利用いただけるようになる予定です。今暫く過渡期となりますので、事務局からの情報は必ずご確認をお願いします。また、ご所属、ご住所など連絡先の変更は速やかにお知らせをお願いいたします。連絡がつかない場合は、会員継続ができない可能性もありますので、十分ご注意ください。新しい年が皆様にとって幸多いものとなります様に。



SFRR Newsletter 2018年1月号

発行:2018年1月1日



注)2018年4月2日以降は事務連絡先が変更予定です。

SFRR Japan事務局 (総務委員会:内藤裕二・半田 修)  
 〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465  
 京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学内  
 TEL & FAX: 075-251-5650

E-mail: [sfrj@koto.kpu-m.ac.jp](mailto:sfrj@koto.kpu-m.ac.jp)

HP: <http://sfrj.umin.jp/index.htm>

